# 第6次富良野市総合計画

# 基本構想

(令和3年度~令和12年度) 2021-2030



総合計画策定の「前提・大切な視点」をもとに、これから 10 年間のまちづくりの方向性と基本的な考え方を示す「基本構想」があります。

基本構想では、「まちづくりスローガン」と「まちづくりコンセプト」を言葉と図で表し、さらに様々な立場を越えて共創していけることを願い「まちづくりメッセージ」を添えています。

# 「美しい」のその先へ。 WA! がまち、ふらの



### まちづくりメッセージ

富良野には、「美しい」がいっぱいある。

美しい「自然」、美しい「こころ」、美しい「くらし」…。

100年後にも残したい 富良野にしかない「美しさ」。

もっとみがける。もっともっと創造できる。 まだ見ぬ「美しさ」。

> ひとりが輝く。 つながることでさらに輝く。 輪になることで輝きつづける。

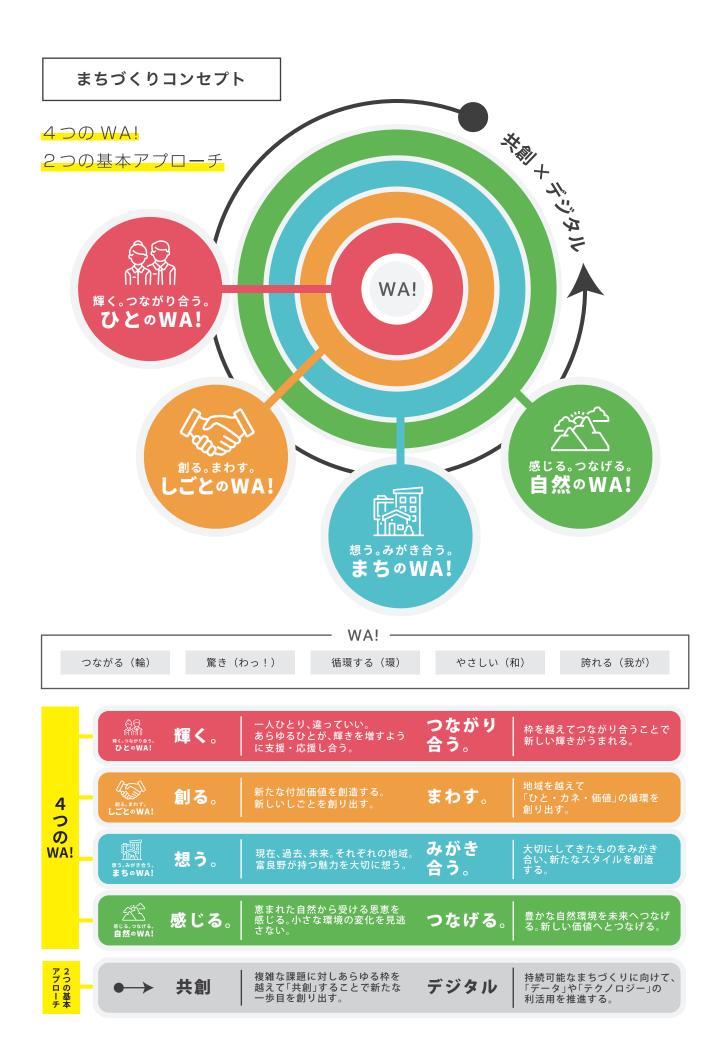
輪がひろがっていくことで、 予想もできない「わっ!」が起こるかも。

そんなふらのに住みつづけたい。 そんなフラノとつながってみたい。 そんな Furano を感じたい。

「美しい」のその先をみんなで見にいこう。



18





# ながり合う。ひとのWA!

## 輝く。

ー人ひとり、違っていい。 つながり あらゆるひとが、輝きを増す **合う**。 ように支援・応援し合う。

枠を越えてつながり合う ことで新しい輝きが うまれる。

#### ことばが持つ意味 -

#### ---- <輝く。> ---

- ●「輝く。」とは・・・
  - ・きらきら/光を放つ/注目/まぶしい。
  - ・イキイキとしている/楽しそう/笑顔/いきがい。
  - ・何かに一生懸命打ち込んでいる姿。
  - ・成長している様・成熟していること。
- ●「一人ひとり、違っていい。」
  - ・個性や多様性があることを認める。
  - ・認め合う/承認されることでさらに輝く。
- ●「支援・応援し合う。」
  - ・一方的なヘルプだけではなく、力を信じ、自立できるよう、 応援・支援し合う。
  - ・「輝き」がある情報を知り、出番をつくってあげる。

#### 

- ●「つながり合う。」とは・・・
  - ・結ばれて一続きになる/継続する/関係がある/絆。
  - 共感がある。
  - ・同じ目的を持つ。
- ●「枠を越えて」
  - ・立場や年代、様々な壁を取り払う。
  - ・自治体の枠や地理的制約などを取り払う(道外、海外・・・。)

# இ 創る。まわす。しごとのWA!

創る。

新たな付加価値を創造する。 まわす。 新しいしごとを創り出す。

地域を越えて 「ひと・カネ・価値」の循環 を創り出す。

#### ことばが持つ意味 -

#### 一 <創る。> 一

- ●「創る」とは・・・新しいものを生み出す/興す/ New /産む /挑む/育てるなど。
- ●「新たな付加価値を創造する。」
  - ・今あるものを伸ばす、見直す、プラスアルファを創る。
  - ・「農業」×「観光」など掛け合わせを行う。
- ●「新しいしごとを創り出す。」
  - ・新規起業者の創業場所として/今までにない新しい仕事 の創出の場として
  - ・挑戦できる機会・応援がある。
- ●「創る」のその先は?稼ぐ≒付加価値。
  - ・所得が上がることで将来への安心、活力につながる。

#### 一くまわす。> ー

- ●「まわす」とは・・・循環
  - ・「循環する経済」を創り出す。
  - ・様々な要素が相互に良い形でつながり合い、持続性があ
- ●「地域を越えて」
  - ・地域内外を越えて、ボーダーレスに循環を創る。
- ●「ひと・カネ・価値」
  - ・経営視点をもって、「ひと」の循環/「カネ」の循環/ 「価値(=モノやサービスの価値)」の循環を創る。



# 震 想う。みがき合う。 まちのWA!

## 想う。

現在、過去、未来。それぞれの 地域。富良野が持つ魅力を大 切に想う。

# みがき 合う。

大切にしてきたものを みがき合い、新たな スタイルを創造する。

#### ことばが持つ意味・

#### ── <想う。> 一

- ●「現在、過去、未来」
  - ・過去と今の「美しさ=魅力」を再確認し、未来へ。
- - ・地域によって特徴があり、想い(郷土愛)はそれぞれ。 - 違いを大切にしていく。
- ●「富良野の持つ魅力」
  - ・魅力とは?自然、人、文化、生活スタイル・・・など。
  - ・一人ひとり感じる魅力は別々。多様性。
  - ・型にはめない富良野の「美しさ」。

#### ------- <みがき合う。> *一*

- ●「大切にしてきたものを みがき合い」
  - ・これまで積み重ねられてきたものを再認識し、自分本位 になることがないよう、「まち」にとってより良い形に 1.711/
- ●「新たなスタイルを創造」
  - ・今までのやり方のままでは持続・維持は難しい。 個人、地域が持続的に暮らせる形を創造する。
  - ・短期で捉えると日常的なスタイルだが、長期で捉えると、 人生のスタイル。日々の暮らしの豊かさだけでなく、人 生の豊かさ。新たな豊かさの定義を再考。
  - ・一度外に出ても、成長し、帰ってこれる(帰ってきたくな る)富良野の魅力。
  - ・共創・デジタル利活用による「まち磨き」。



# ダ♥ 感じる。つなげる。 自然のWA!

恵まれた自然から受ける恩 恵まれた自然から受ける恩 恵を感じる。小さな環境の変**つなげる**。 化を見逃さない。

豊かな自然環境を未来へ つなげる。新しい価値へと つなげる。

#### ことばが持つ意味

#### --- (感じる。> --

- ●「自然」は、まず感じてみることが大切。
- ●どこで感じるか?
  - ・「五感」で感じる・・・視/聴/味/触/嗅覚。
  - ・「心」で感じる・・・想像する。本質をつかむ。
- ●どのような感情が生まれるか?
  - ・残したい気持ち/誰かと共有したい気持ち。
  - ・癒される気持ち/気持ちをリセットできる。
  - ・「美しさ=魅力」「あたりまえじゃない」「恩恵を受けて いる」ことへの感謝の感情など。
- ●「小さな環境の変化」
  - ・積み重ねてある「今」の自然の持つ豊かさを残していく ために、変化をキャッチする。

#### ー <つなげる。> ー

- ●「つなげる」・・・時間的につなげる/物理的につなげる。
- ●つなげるものは何か?
  - ・富良野にしかない「美しさ=魅力」未来につなげていく。
  - ・自然 があることで生まれる「新しい価値や魅力」を「ひ と・しごと・まち」につなげていく。
  - ・エネルギーと営み・生活の循環。
  - ・農業と自然の共生。
  - ・災害と共存しながらも安心して暮らせるまち。

# 共創×デジタル

### 共創

複雑な課題に対しあらゆる 枠を越えて「共創」すること で新たな一歩目を創り出す。

## デジタル

持続可能なまちづくりに向 けて、「データ」や「テクノロ ジー」の利活用を推進する。

#### ことばが持つ意味

#### --- <共創> --

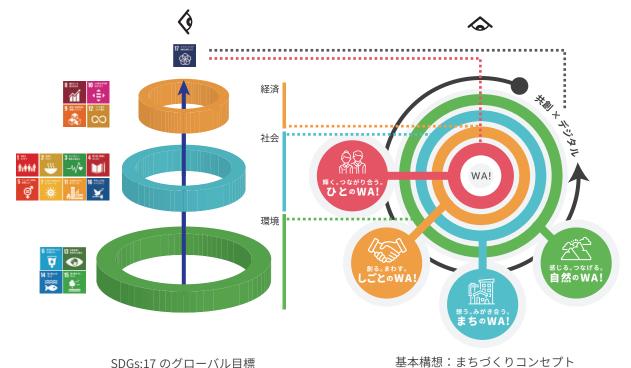
- ●正解が一つではない、変化のスピードが速く、やってみない とわからないことが多い時代。これまでとは違った新たな価 値創造が求められる。
- ●「共創」とは、多様な立場の人たちが対話を重ね、新しい価値 を「共」に「創」り上げていくこと。一歩進んだ協働・連携の 形として、社会的課題の解決や新たな価値創造を目指す。
- ●テーマによってさまざまな共創の機会が創出されることを大 切にする。

#### - <デジタル> 一

- ●社会課題の解決に向けて、「持続可能なまちづくり」の手段 としてデジタルの利活用を行なう。
- ●効率化・省力化にとどまらず、デジタルを利活用した意思決 定や広報戦略の見直しを行う。
- ●富良野の良さをなくさないよう、アナログ的なことの大切さ も見極めながら、目的に応じてデジタルを利活用する。
- ●「データ」の利活用・・・ 仮説を立てる→データ収集・分析→データ利活用による 白治体経営
- ●「テクノロジー」の利活用・・・ 科学技術の総称(ICT、AI、クラウド、ビッグデータ、 ロボティクス、IoT等)。目的に合ったテクノロジーを利活用、 推進を行う。

#### 基本構想の「まちづくりコンセプト」図は、SDGsとの関連性も表現しています。

※SDGs エスディージーズ:Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能 な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。



SDGs:17 のグローバル目標



少子高齢化・人口減少など、急速に社会構造が変化し、地域やコミュニティの課題が複雑化 しています。従来の方法のみでは限界があり、行政の力だけでは課題を十分に解決することは 困難になってきています。

未来において、より良い社会をつくり出していくためには、行政と民間事業者と市民とが、 より高度な形で協働していく必要があります。実際に、官民共創の流れは世界的なものになっ てきています。

「共に新たな価値を創造していく」ことで、課題解決につながっていく「コト」が生まれることこそが「共創」の概念です。



# 「共創」のためのキーワード

KEYWORD

# ★オープンにつながる

多様な方が集まる。肩書や序列などはなく、 フラットな関係。それぞれの持つ経験や 能力、想いなどによって化学反応が 起こりやすい場をつくる。

## ★対話

絶対の答えがない複雑な課題。 何が起こっているか構造をみんなで探り、 ありたい未来を描く。 好奇心と探求心で対話を深める。

## ★(できることを)やってみる・改良する

対話によって浮かび上がってきた アイディアを、実際に具現化していくために、 役割を適切に分担しながら試行してみる。 やってみて見えてくることをもとに、 さらに改良していく。